

**【栄区】令和2年第3回区づくり推進横浜市議員会議
議事録**

開催日時	令和2年9月4日（金） 午後3時30分～4時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】長谷川えつこ議員</p> <p>【議員：2名】大桑正貴議員、奥石且子議員</p> <p>【栄区：30名】富士田学区長、小泉信義副区長、 青木匡史福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長、 鈴木誠土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和元年度個性ある区づくり推進費決算について 2 令和2年度個性ある区づくり推進費執行状況について 3 令和3年度栄区予算編成の考え方について 4 会議報告書作成について
発言の 要 旨	<p style="text-align: center;">（小泉副区長議題説明省略）</p> <p>大桑議員： さかえ・ふれあい運動会について、発展的解消をして今年度からはほかの形でやるという話だったと記憶している。どういう形に変更しどの事業に含んでいるのか教えていただきたい。</p> <p>小田高齢・障害支援課長： ふれあい運動会については、担い手の高齢化などにより、従来の形で継続することが困難となったため、パラフェスタの中でその趣旨を盛り込み開催したいと考えている。新型コロナウイルス感染症対策のことも踏まえ、少し縮小した形で実施する方向で検討している。</p> <p>大桑議員： 栄IC・JCT（仮称）周辺のまちづくりについて、決算額がゼロのため意見交換はされていないかと思われるが、工事の完成が延期となったことを踏まえ様子を見ているということなのか、考え方を教えてほしい。</p> <p>永松区政推進課長： 開通時期が、横浜湘南道路に関しては令和6年度、横浜環状南線に関しては令和7年度という形で4年から5年延期になった。当初、道の駅をつくりたいという地域の思いから、今あるスペースを使ってどのようなことができるかを検討するというので、開通時期に合わせてより具体的な検討を行うことを</p>

想定していたが、開通が延期になったため、委託等を見合わせ、ほぼ執行していないという状況だ。ただ、地域と簡易な調整はしているので、例えばそこに置く消防小屋をどうするかとか、そういうことについては地域の方と引き続き検討している。

大桑議員：ペット防災対策事業について、テントを購入した理由を教えてください。

渡邊生活衛生課長：地域防災拠点においてペット対策が進んでいないという現状を踏まえ、ペットを預かるスペースを確保するためテントを用意し希望する拠点に配布することにより、ペット同行避難者の受け入れ体制の整備を促進することを目的としている。

大桑議員：原因食物が含まれた餌を食べたペットがアレルギーのある方に近づくだけでも反応してしまう場合がある。ペットを連れて避難する気持ちもよくわかるし、一方で、アレルギーがある方についても十分に配慮した取組をしていただきたい。

興石議員：おもてなし区役所推進事業について、執行率 192.5%だが、これだけの増額となった理由は何か。

伊藤総務課長：庁舎改善事業が予算額 300 万円に対し決算額 990 万円超となっている。庁舎の中で改善が必要となったところに執行させていただいており、戸籍課のレイアウト変更をする中で、お客様を効率的にご案内できるよう番号呼出システムを増加したほか、本館の手すりの設置などの改善をさせていただいた。

興石議員：日頃から戸籍課のシステムや手すり以外にも執行したい案件など検討事項があるのか。

伊藤総務課長：今年については、当初は予算に計上していなかったが急遽、新型コロナウイルス感染症対策のための経費が必要となっている。元年度についても照明のLED化や断熱対策など、必要性を踏まえて改善したいところに執行させていただいている。

興石議員：大きな金額が予算外に動いているので、そういう話を共有していただけるとありがたい。議員団会議の場などで、そういう場を持つことはできないか。

伊藤総務課長：本日、令和2年度の執行見直しについてご説明させていただく。

興石議員：セーフコミュニティという括りの中に地域福祉保健計画が含まれている。地域福祉保健計画というのは、セーフコミュニティが

なくても続けるべき事業だが、どういう位置づけか教えていただきたい。一方で、例えばスクールゾーン対策事業は「安全・安心まちづくり推進事業」に入っているが、セーフコミュニティの事業の一環として地域と検討している。どういう考え方に基づいて整理しているのか。

永松区政推進課長：まずセーフコミュニティという事業は栄区の大きな特徴であるということで、区民全体を巻き込んだ、福祉も含めた計画として、地域福祉保健計画もセーフコミュニティの枠に入れている。また、分科会とスクールゾーン対策事業の関係については、分科会の議論の中から発生した事業は各分科会の予算として計上している。

根本地域振興課長：交通安全関係の事業については、セーフコミュニティの中に交通安全対策分科会があり、令和元年度までは、交通安全の啓発活動とスクールゾーンはそれとは別の事業として記載していた。令和2年度からはセーフコミュニティの中に交通安全をまとめたが、スクールゾーン対策と、駅の放置自転車対策は従来からあった事業なので、セーフコミュニティに含めなかった。セーフコミュニティが終了した際に継続する事業は別立てにして令和2年度から組み替えている。

興石議員：セーフコミュニティの認証がなくなることも常に考えなければいけない。セーフコミュニティは、栄区の大きな個性なので、それをどうやって使っていくかというのは、考え方を常に整理しながら進めていただけたらいいかと思う。

また、栄IC・JCT（仮称）周辺のまちづくりについて、決算額がゼロということだが、理由は道路局とも話をしているが、実際に開通時期が延びてしまったことは区民全体に広がっていない。区民へ知れ渡っていないことについて考えを聞きたい。

永松区政推進課長：延伸することが知れ渡っていない件については、諸所の工事説明会等で周知していくということが考えられる。ご意見をしっかり道路局等に伝え、どのように周知するかを検討していきたい。

長谷川座長：昨年度末より新型コロナウイルス感染症の影響で数々のイベントが中止されたが、その分の予算は、おもてなし区役所推進事業や防災力向上事業で執行されているようで、バランスの取れた

いい決算だと思っている。

では、次の議題である令和2年度の執行状況について、質疑をお願いしたい。

大桑議員：現年度見直しについて、色々な事業について中止や見直しがあり、その分の予算を新型コロナウイルス感染症対策に使ったということですが、改めて考え方について伺いたい。

伊藤総務課長：横浜市としての考え方にも連動し、新型コロナウイルス感染症対策と新しい生活様式への対応に、見直しをした財源を充てていくという考え方となっている。感染症対策を優先し、資料に記載の通り、例えば地域防災拠点等避難所の対策に必要な物品を配備する。また、新しい生活様式を踏まえた環境整備として、関係機関とのリモート会議等のために必要な機材の購入等に財源を活用したい。また、出水期も控えている中で水害対策を強化する必要があるため、広報スピーカーの機能向上等にも財源を使わせていただきたいという考え方だ。

大桑議員：新型コロナウイルス感染症に対してもそうであるし、水害も大きな被害が梅雨の時期等に出ており、台風についてもまた昨年のようなことになる懸念もあるので、ぜひしっかりと対策していただきたい。

地震のときなどはなかなか難しいと思うが、これから水害が発生したり台風が来たときに、地域防災拠点でも避難者の距離を取らなければいけない。どうしても受入れ人数を絞らなければいけないときの考え方というのは、事前に自分で避難できる場所を探しておくとか、複数避難できる場所を確保しておくとか、市としてもそういう話が出ていると思うが、栄区としてはどのような考えか。例えば、本当だったらAというところしか開けないけれども、B、C、Dを開けるとか、そういう考え方ができているのか教えていただきたい。

伊藤総務課長：ご指摘いただいたように、現在、避難所の密回避というのが大事になっている。通常は、風水害のときに開ける避難所が6か所、これは、土砂の場合と河川の洪水の場合とでそれぞれ4か所・3か所、このうち一か所が重複しているので合計6か所となるが、こちらを一括して開けることを新型コロナウイルス感染症対策として考えている。また避難状況に応じて、別の指定されて

いない学校についても開けられるような事前調整を行っている。

大桑議員：スクールゾーン・自転車対策事業について、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しいと思うが、今年度の開催状況などについて教えていただきたい。

根本地域振興課長：スクールゾーン対策協議会は14校の小学校にそれぞれあるが、今年度に限っては合同の説明会はできていない。各学校においても土木、警察、区役所が入った全体でのスクールゾーン対策協議会は開催されていないが、PTAの校外委員さんや学援隊の方、登下校の見守りの方、学校の先生方等で通学路の安全について協議し要望書という形で区役所に提出していただき、それを受けて土木、警察と協議した上で回答書というものを送らせていただくことを考えている。また、スクールゾーン対策協議会に対する補助金については、そういった活動をされているということで、今年度も執行していきたいと考えている。

大桑議員：スクールゾーンはやはり、子供たちの通学の安全を守るためにとても大切なことだと思うが、一方で、PTA役員である保護者の方にとっては結構な労力であると感じた。今後やり方を見直していくという意味で、場合によっては要望で済むような年もあったり、会議を開催する年もあったりとか、そういう柔軟性も必要ではないか。

教育委員会との関係もあり区の判断でどうこうすることはできないかもしれないが、来年以降も新型コロナウイルス感染症対策が必要になると考えられるので、PTAの方の活動も含めてぜひ、働き方改革という点でも軽減できるような場合があったら相談を受けてもらえるよう、要望として受け止めていただきたい。

また、安心・安全な道づくり事業について、天園のことについてはぜひ進めていただければと思うが、今回事業になったということだが、栄区の中で今後こういう場所を選定して事業として継続していくのか、それともあくまでも短期的なものなのか。

鈴木土木事務所長：この事業は、天園という場所が栄区にとって非常に大事なところであり、皆さんに楽しんでいただいているので安全にしたいという考えで、3か年で手すりを整備することになっている。もともと階段が非常に老朽化していて補修をかけていて、それに合わせて安心・安全にしましょうということで進めている。

局による道路整備の話もあり、区で進めるには特化した理由も必要なので、あくまでも非常に重要な場所ということで整備を新規事業で起こしている。そのため、現時点では3か年で終了ということを考えている。今ご意見を頂いたように、今後3年の間に状況を見ながら、またご意見があったら検討していきたい。

大桑議員：無理に続けるような話ではないと思うが、場合によってはという話だったので、またもし何かあれば相談させていただきたい。

鈴木土木事務所長：いろいろな要望があって、各区でも場所の優先度を決めて整備しているので、またその辺はご意見を頂けたらと思う。

大桑議員：愛護会活動支援事業について、新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか活動できない状況だが、大分草木が伸びているので、今後動き出すときに環境創造局がそのための予算対応をするという話があり、それと同時に通常の活動も始めてくださいということになっていると聞いているが、栄区の愛護会の活動状況はどうか。

高橋土木事務所副所長：6月末に緊急事態宣言が解除されてから、愛護会活動はほぼどこの公園も既に再開している。今回環境創造局から、補正予算で草が生えてしまったところを対応すると聞いているが、通常業務の中で土木事務所も多少手を入れているので、あえてプラスでやってほしいというところまで声は上がってきていない。今後声があれば順次対応したいと考えている。

大桑議員：貴重な情報を頂いたので、審査のときに使わせていただきたい。

興石議員：執行残の使い道ということについて、様々な思いがけないものがリモートでやられていくようになると思うが、残念ながら栄公会堂の会議室のインターネット環境が悪い。県の施設だが、アースプラザの会議室のインターネット状況も悪い。自分でも持ち込んでどんな感じか調べてみたが、とてもリモート向きな施設の状況ではない。これは市民局にも言っていくべきで、横浜市全体でももう少しネット環境を改善しなければいけないと思うが、区でもぜひ身近な施設のネット環境を、ここで改めてどんなものなのか調べてもいいのではないかと。現状、そういった考えみたいなものは持っているか。

根本地域振興課長：区民利用施設を担当しているが、リモート環境にはないというのが現状だと思う。区づくり推進費の中にも区庁舎・区

民利用施設管理費という分野があり、施設の設備としては自主企画事業ではなく、区庁舎・区民利用施設管理費で検討する内容かと思われるが、リモート環境を整えるために施設管理費の中で予算を確保するというのは難しいのではと現状では思っている。

興石議員：横浜市全体で目指さなければいけないことなので、局の方と対応していただくことでもある。また、栄区は高齢者が多いが要介護認定率が最も低く、活動的な年長者が多いというのが一つの魅力的な特徴だと思っている。リモートやSNSなど若者が得意というイメージのあるものが、実は高齢者に向いている技術だと思うので、ぜひハード面の対応も進めながら、そういったリモート会議をしたい人へのアドバイスができるような人員の配置などを独自で進めていくのも栄区の魅力の一つになるかと思う。

セカンドキャリア支援事業について、執行状況は。実際のニーズとかみ合った感じでやっているのか。

永松区政推進課長：セカンドキャリア支援事業については、ニーズを把握するアンケート調査を実施して、その分析も含め委託を進めた執行済額となっている。まずは40代以上の方が働いていないときの空いている状況をどのように使いたいのか、今までどのように使っていたか、またこの現状ですと、新型コロナウイルス感染症の影響で活動がしづらいと思われぬような形のアンケートにするため工夫しながら検討しており、収束する見込みも立たない中では区としても悩みながらアンケートを作っている。アンケートの回答を頂き、この方々がどのようなことを求めているかということ把握して来年度に事業を設計していくという形で進めていく予定である、現在はニーズを正確に把握しているわけではないという状況だ。

興石議員：ピンチをチャンスにということで、新規で計画していてよかったと本当に思う。働いている現役世代も地域で働くなど働き方が大きく変わるので、セカンドキャリアと現役の人が共に地域でご自分の力を発揮していくという社会、新しい生活様式にはまっていける事業なのではないかと思う。まだまだ区民一人一人が気づいていないニーズを発掘していくような事業にしていきたい。応援させていただきたい事業だ。

さかえ環境まちづくり推進事業という大きな項目だが、この項

目出しは私もとてもいいと思う。栄区の緑や自然環境ということと、まちづくりそのもののハード面との合わせ技で1つの中で議論していただいてとてもいいなと思うのだが、交通改善による温暖化対策実証事業ということで、小型電気バスの実証実験を一旦打ち出していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、大量輸送型の公共交通の在り方自体が計画した当時とは大きく変わったと思う。そうすると、個別輸送型だけでも公共交通が担わなければいけないことというのも考えていかなければならない。ここは大きく根本的に考え方を変えなければいけないものだと思うが、現状で、来年度予算のこともあるが、令和2年はどのように考えていくのか、今の段階での考えがあればお聞かせいただきたい。

永松区政推進課長：まずこの事業を今年度どうするかということに関しては中止とさせていただき、一旦現年度見直しに入れさせていたため、予算を使うことは考えていない。この事業は、免許返納をすることで交通量改善も含めて対策できるのではないかとということで、大量輸送の中でやればいいのかという考えで実証実験を計画した。先生がおっしゃるように、現在は一緒に乗るといった考え方が少なくなっていることもあるかもしれないという状況ではあるが、区のまちづくり方針の中では、緑あふれる生活文化都市という形でマスタープランも設定しているので、緑を大事に、環境を大事にしていくために何ができるのかということも念頭に置きながら実証事業をつくったという経過がある。ただ、交通と緑あふれる生活文化都市を結びつけ、個別の交通を軸に、来年度これを発展させていくというイメージはまだできていない。

興石議員：社会福祉協議会と福祉保健センターが中心になって、移動手段から高齢者の生活を支えるためにという会合の第1回が1月20日に開かれ、第2回は8月24日に開かれている。タクシー会社の方、福祉団体の方、社会福祉協議会とで開かれた会合だが、区は関係していないのか。

小田高齢・障害支援課長：基本的に栄区社会福祉協議会と何区か別の区と合わせてコーディネーターさんがこんなことはできないだろうかというような検討をされたということで、その中で、高齢者が

サロンなどに出かける手段としてタクシーを使えないかといったことを考え出そうとしており、1月に会議を開いたと聞いている。ただ、その後は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなかその会議を進められていないという状況と聞いており、担当係長が少し話を聞きに行ったという事実はある。

興石議員：今年中止になった新しい交通手段の検証ということと連動していて、地域の活性化ということに発展していける要素があると思っている。ぜひ社会福祉協議会と区役所が連携して、民間の企業であるタクシー会社に担ってもらう公共交通ということで考えを一緒にしていただけたらありがたい。

生ごみ等堆肥化事業のキエーロのことだが、自分もやっているし長谷川委員もやられているが、栄区が先陣を切って助成できるようになって、とてもよかった。以前は段ボールコンポストもやっていた。段ボールコンポストとか、キエーロと並んで、ほかのいろいろなメニューがあるのもいいかなと思っているので、一旦始めたメニューはどうなっているか、その後の段ボールコンポストはどうなったのかを聞きたい。また、キエーロの補助金は大体何人ぐらい、幾つぐらいをイメージされているのか教えてほしい。

池田資源化推進担当課長：段ボールコンポストについては、既に廃止している。天候の影響も受けるので、それに代わる、ベランダ等でもできるミニ・キエーロ補助制度をスタートさせていただいた。今年度は132基分の財源を用意しており、9月1日に販売を開始したが、3日間で47個の売上げがあって、好評を受けている。

興石議員：栄区の避難所マップ、風水害編を独自に作っているが、地域でお話を聞くととても評判がいいので、区の独自の視点というのを細やかにやっていただいて感謝している。それに連動して、地域防災拠点の看板をつくっていただき、こちらも非常に評判がいいのだが、令和元年度の予算だったか。

伊藤総務課長：地域防災拠点の看板については、元年度中に執行させていただいた。

興石議員：まず1個、正門の近くとか、学校の希望も聞いてつけていただいたと伺ったが、裏口のほうにもあったらいいとか、他にも希望する声が聞こえてくるので関係者の皆さんからぜひ様子を聞いて

	<p>ていただきたい。</p> <p>長谷川座長：今回、横浜市で緊急雇用創出事業の募集をしていて、現在15区が区内で雇用をということで手を挙げているが、その中に栄区が入っていない。栄区としては今後、雇用の検討をされるのかどうか伺いたい。</p> <p>伊藤総務課長：15区については、区庁舎の消毒等を中心に手を挙げていると伺っている。栄区では、今のところ清掃の委託と職員の直接の清掃とで対応できているので、今回は応募していない。</p> <p>長谷川座長：ゆるキャラグランプリについて、タッチーくんが今28位ということで、9月24日まででしたか、もう少しで締め切りとなるので、これも引き続き最後まで頑張っていきたいと思っている。ほかに質問等なければ、次の議題の令和3年度栄区予算編成の考え方について、区長よりご説明をお願いしたい。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	